

地域づくり県土警察常任委員会資料

(令和元年9月13日)

- 1 「とっとり県民の日（9月12日）」に係る各種取組の実施について
【県民参画協働課】・・・ 1ページ
- 2 令和新時代創造県民運動の推進について
【県民参画協働課】・・・ 3ページ
- 3 飛込競技・三上紗也可選手の東京五輪内定について
【スポーツ課】・・・ 5ページ
- 4 東京2020オリンピック聖火ランナーの応募結果について
【スポーツ課】・・・ 6ページ
- 5 JFA第14回全日本ビーチサッカー大会の開催結果について
【スポーツ課】・・・ 7ページ
- 6 中国5県地域おこし協力隊合同研修会の開催結果について
【中山間地域政策課】・・・ 8ページ
- 7 公共交通利用促進キャンペーンの実施について
【地域交通政策課】・・・ 9ページ

地域づくり推進部



「とっとり県民の日（9月12日）」に係る各種取組の実施について

令和元年9月13日
県民参画協働課

県民が鳥取県について学び、ふるさとに愛着と誇りを持っていただくことを目的として、「とっとり県民の日」である9月12日に合わせ、民間事業者、教育委員会、市町村と連携し、次のとおり各種取組を実施しましたので、その概要を報告します。

1 イオンと連携した「とっとり県民の日」PRイベントの実施

(1) 期日 令和元年9月7日(土)～12日(木)

(2) 内容

- ・鳥取県の観光魅力をSNS投稿風に紹介する「WE ♪ TOTTORI」パネル展示
- ・とっとりふるさと大使「サンド」・「アローラサンド」との記念撮影
- ・「令和新時代創造県民運動」活動紹介パネル展示 等



県内活動団体によるパフォーマンス

<イオンモール鳥取北>

- ・食のみやこ鳥取県「特産品コンクール」受賞商品販売会（県内13事業者出品）
- ・県内活動団体によるステージイベント（鳥取だらすプロレス、因幡の麒麟獅子）
- ・「とりアート」による音楽演奏（ゴスペル、ウクレレ）



先着で特産の二十世紀梨をプレゼント

<イオンモール日吉津>

- ・琴の浦特別支援高等学校による新鮮野菜販売
- ・とっとり花回廊によるワークショップ 等

※いずれの会場でも来場者に本県特産の二十世紀梨をプレゼントした（各会場500名、計1,000名）。

8日の鳥取北店では、平井知事が参加し、梨プレゼントを実施したほか、食のみやこ鳥取県「特産品コンクール」受賞商品販売会で来場者へ声掛けを行った。

<来場者の声>

- ・県内に美味しい食べ物があるのがわかった。
- ・鳥取県の歴史について知ることが出来た。



ふるさと大使「サンド」「アローラサンド」と記念撮影

2 県内スーパーマーケットと連携した「とっとり県民の日」フェアの実施

広告チラシでのフェア開催案内、県産食品の販売促進、のぼり掲出等で利用者にPRした。

<協力事業者> サンマート（9）、エスマート（11）、鳥取西部JAショップ（4）、岡田商店（2）、スーパーマルワ（5） ※括弧内は参加店舗数

3 公文書館での「とっとり県民の日」特別企画展の開催

(1) 会期 令和元年9月6日(金)～19日(木)

(2) 場所 県立公文書館（鳥取市尚徳町）

(3) 内容 「鳥取県ができるまで」をテーマに、公文書や写真等で紹介する企画展示。

再置後の県令山田信道の大礼服は初公開。



特別企画展の様子

4 学校図書館等での「とっとり県民の日」パネルの展示

高等学校図書館及び市町村立図書館で、とっとり県民の日のパネルを展示した。

〈取組例〉 県立米子西高等学校、県立倉吉東高等学校、鳥取敬愛高等学校 等 計8館

5 ふるさと「とっとり」講師の派遣

児童・県民等に鳥取県の歴史や地域の魅力を伝え、ふるさとへの理解を高めるため、専門的な知識を有する講師を学校・公民館等に派遣した。

〈取組例〉 期日：令和元年9月12日（木） 場所：鳥取市立宮ノ下小学校（5年生：55名）
内容：とっとりのすぐれものと歴史 講師：奥村 一成氏（元小学校校長）

6 学校での「とっとり県民の日」一斉取組の実施

全ての小中高校・義務教育学校・特別支援学校の児童・生徒が、ふるさと鳥取県について考える機会を設けた。

〈取組例〉 県民の日パンフレット配布の他、ホームルーム等の時間を活用し、鳥取県誕生の経緯や、とっとり県民の日の趣旨説明、鳥取県クイズなどを行った。

7 学校給食での「とっとり県民の日」統一メニューの提供

給食を提供する県内の小中学校、特別支援学校等で、9月12日に、給食に県特産の二十世紀梨等を食材としたメニューを提供した。

〈取組例〉 鳥取市、岩美町他 デザートに二十世紀梨ゼリーを提供

8 県政広報媒体での広報展開

以下の県政広報媒体で広く県民に広報を実施した。

〈テレビスポットCM（30秒）〉

令和元年9月1日～12日（日本海テレビ（NKT）、山陰放送（BSS）、山陰中央テレビ（TSK））

〈マンガを活用した新聞広告（全5段）〉

令和元年9月7日（日本海新聞）

〈県政だより9月号〉

9 県内施設の無料開放・料金割引

県民の日条例による県立施設の無料開放を行った。また、県民の日の趣旨に賛同した市町村立施設等が無料開放等を行った。

〈無料開放〉22施設

コカ・コーラボトラーズジャパンスポーツパーク、鳥取産業体育館、県営鳥取屋内プール、県立博物館、倉吉体育文化会館、東郷湖羽合臨海公園、米子産業体育館、県営東山水泳場、県立武道館、みなとさかい交流館、とっとり花回廊、なしっこ館、わらべ館、やまびこ館、因幡万葉歴史館、仁風閣、鳥取市民体育館、鳥取市B&G海洋センター、鳥取市武道館、鳥取市弓道場、鳥取市千代テニス場、鳥取市城北テニス場

〈利用者割引〉2施設

鳥取砂丘こどもの国（半額）、青山剛昌ふるさと館（100円引き）

※設定期間は施設によって異なります。

令和新時代創造県民運動の推進について

令和元年9月13日
県民参画協働課

本年7月からスタートした「令和新時代創造県民運動」（以下、「県民運動」という。）の取組状況について、以下のとおり報告します。

※「令和新時代創造県民運動」とは

令和新時代の新たな住民参加型の県民運動として、若者をはじめあらゆる年代や主体が地域をよくするために行う活動や、クラウドファンディング等の新たな方式で、多くの人の共感を得て行う活動の総称

1 地域づくり活動への参加機運の醸成の取組

(1) 県民運動の情報発信

ア 県民運動ロゴマーク・キャッチフレーズ募集

県民運動を多くの県民に知ってもらい、親しみのある運動としていくため、シンボルとなるロゴマークとキャッチフレーズを募集する。（現在募集中）

①募集期間：令和元年7月22日（月）～9月30日（月）（午後5時必着）

②募集内容：①県民運動のロゴマーク、②県民運動のキャッチフレーズ

※一方又は両方で、1人（1グループ）各部門3作品まで応募可

③賞品：採用作品各1点の応募者に賞状と副賞（①ロゴマーク3万円、②キャッチフレーズ1万円）を贈呈

イ 「県民運動ワクワク月間」の設定

多くの県民に県民運動に興味を持ってもらい参加してもらえるよう、地域づくり活動が一番盛んな9～10月を「県民運動ワクワク月間」とし、月間PRエリア版広告（日本海新聞折込による全戸配布）により活動を紹介する。

①発行日：令和元年9月7日（土）

②掲載内容：若者による地域づくり活動の紹介（5団体）、月間中に実施されるイベント情報

ウ 新聞広告

広告、タイアップ記事（7月開始、計11回予定）等、新聞紙面を活用し、モデルとなる地域づくり活動の紹介等を行う。（掲載紙：日本海新聞）

エ その他

- ・PRサイトによる情報発信を行う。（イベント開催情報、ボランティア関連情報等）
- ・「とっとり県民の日」PRイベントで活動紹介パネルを展示及びチラシを配布する。（9/7～12）
- ・のぼり旗を作成し、地域づくり活動団体に掲示を依頼する。

(2) 地域づくり活動団体交流会の開催

「多世代でつくる持続可能な地域づくり」をテーマに、南部町手間地区交流拠点施設「てま里」の視察や、事例紹介、団体同士の意見交換会などを実施し、活動の悩みや課題、アイデアを共有した。

①開催日：令和元年8月27日（火）

②場所：南部町手間地区交流拠点施設「てま里」、南部町役場天萬庁舎

③参加者：地域づくり活動団体等38名

④参加者の声：・他の団体の運営方法や活動内容を知ることができた。

・他の団体の人たちの経験から教えてもらったことをすぐに活かしたい。



▲「てま里」視察の様子



▲事例紹介の様子

2 若者の地域づくり活動への参加促進の取組

県民運動推進補助金「若者活動支援型」の募集

特に若者の活動を支援するため、6月補正予算により「若者活動支援型」を創設し、補助金の募集を行った。

- ①募集期間：令和元年7月8日（月）～8月30日（金）
- ②申請状況：5団体から申請受付 ※9月27日開催の審査会で採択団体決定
- ③対象事業：若者による新たな取組（試行的な取組を含む）及びこれまでの取組を拡充するもの
- ④対象：10歳から25歳までの年齢となる者3名以上が中核となって構成されている団体
- ⑤補助上限：150千円、補助率：10/10

3 みんなで地域づくり活動支援の輪を広げる取組

(1) 県民運動推進補助金「チャレンジ型」（ふるさと納税活用）の募集

クラウドファンディング型ふるさと納税を活用して、より広く市民を巻き込み、共感を得ながら取り組む活動を支援する「チャレンジ型」の募集を行った。（6月補正予算で新設。現在募集中。）

- ①募集期間：令和元年7月8日（月）～9月30日（月）
- ②申請状況：2団体から申請受付（9月3日時点）
- ③対象事業：これまでの活動を更に発展させ、クラウドファンディング型ふるさと納税を活用して、より広く市民を巻き込み、共感を得ながら取り組む事業
- ④対象：地域づくりに意欲があり、県内に事務所又は活動拠点を有する団体等
- ⑤補助上限：200万円、補助率：10/10

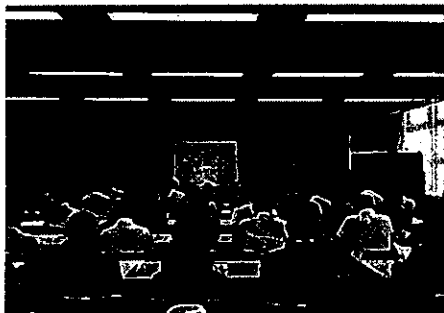
(2) 企業による社会貢献活動の推進

企業の社会貢献活動を促進するため「CSRマッチングセミナー」を県内3か所で開催し、「持続可能な地域と企業のためのSDGs」をテーマに、SDGsの基本的な考え方や企業、行政、NPO等の全国的な動きを紹介する講演と、県内でSDGsに取り組んでいる企業等3団体の事例紹介をした。

（財）とっとり県民活動活性化センターに委託）

※「SDGs」とは…持続可能な開発目標のことで、17の目標と169のターゲットからなる、2015年9月の国連総会で採択された2030年に向けた具体的行動指針。目標は「貧困をなくす」、「気候変動に具体的な対策を」等

- ①開催日：令和元年8月7日（水）、8日（木）
- ②場所：7日：米子コンベンションセンター第4会議室
8日：エキパル倉吉多目的ホール、とりぎん文化会館第2会議室
- ③参加者：地域づくり活動団体、企業、学生等延べ160名
- ④参加者の声：
 - ・現在実施していることをSDGsの視点で見直し、取組を整理したい。
 - ・自社の取り組みをSDGsに紐付けたい。
 - ・持続可能な目標を設定することで、具体的な活動ややりがいが見えてくると感じた。



▲講演の様子



▲事例紹介の様子

(3) 県民運動（旧トットリズム）推進補助金の状況（※3次募集期間：8月26日（月）～9月30日（月））

区分	対象事業	補助上限 (補助率)	採択件数/申請件数 (2次募集終了時点)
スタートアップ型			スタート支援 20件/27件 継続支援 9件/10件 ステップアップ 10件/12件
スタート支援	新規、試行的な事業 従前の取組を拡充する事業	10万円 (10/10)	
継続支援	前年度以前に「スタート支援」の補助を受けた取組に工夫を加えて継続する事業	10万円 (3/4)	
ステップアップ支援	前年度以前に「継続支援」の補助を受けた取組に工夫を加えて成長させる事業	30万円 (3/4)	
令和新時代県民運動推進型	発展的な取組で他のモデルとなり地域の活性化に寄与する事業	100万円 (3/4)	7件/12件
交流サロン活動等支援型 (新たな地域課題対応加算)	地域住民を中心に幅広く交流の場となる拠点を活用する事業 上記に加えて新たな地域課題解決に取り組む事業	100万円 (10/10) 30万円 (10/10)	5件/5件

飛込競技・三上紗也可選手の東京五輪内定について

令和元年9月13日

スポーツ課

本県の^{みかみさやか}三上紗也可選手（米子南高卒・米子ダイビングクラブ）が、7月に行われた第18回世界水泳選手権（韓国・光州）飛込競技・女子3m飛板飛込において5位入賞を果たし、東京五輪内定を決めました。

女子3m飛板飛込では日本勢として24年ぶりの出場となり、鳥取県から飛込で五輪に出場するのは^{おおつぼとしお}大坪敏郎氏以来となります。（大坪氏は高飛込（10m）で東京大会（1964年）8位、メキシコ大会（1968年）24位）

7月23日（金）には平井知事を表敬訪問し、内定したことを報告するとともに、五輪での活躍へ向けて意気込みを語りました。

【第18回世界水泳選手権での三上選手の成績】

○期間 令和元年7月12日（金）～20日（土）

○会場 南部大学市立国際水泳場（韓国・光州）

○成績 予選 7/18（木）8位（51人中）予選通過

準決勝 7/18（木）7位（18人中）準決勝通過

決勝 7/19（金）5位（12人中）入賞

⇒東京オリンピック出場が内定

《決勝の上位選手》

優勝	SHI Tingmao	（中国）	391.00点
2位	WANG Han	（中国）	372.85点
3位	KEENEY Maddison	（オーストラリア）	367.05点
4位	ABEL Jennifer	（カナダ）	333.35点
5位	三上 紗也加	（日本）	323.05点

〔日本水泳連盟では、同大会にて「個人種目決勝進出者12位以内を内定とする」としており、今回の内定はこの選考基準をクリアしたものの。〕

【知事表敬訪問】

○期 日 令和元年8月23日（金）

○場 所 西部総合事務所（米子市）

○訪問者 川口 武 氏（一般財団法人鳥取県水泳連盟 会長）

三上 紗也可 選手（米子ダイビングクラブ）

安田 千万樹 コーチ（鳥取県地域づくり推進部スポーツ課 専門員）



表敬訪問の様子

（左から平井知事、三上選手、安田コーチ）

【三上選手が出場する東京五輪「女子3m飛板飛込」の概要】

○期 間 2020年7月31日（金）15:00～17:30 予選

8月 1日（土）15:00～16:30 準決勝

8月 2日（日）15:00～16:30 決勝

○会 場 東京アクアティクスセンター（東京都江東区辰巳の森海浜公園）（現在建設中）

○競技概要 3mのジュラルミン製でできた飛板を使い、反発力を利用して演技を行う。演技は、踏切の方向と宙返りの方向、演技に捻りを加えたもの等がある。採点は、回転の型（伸型、蝦型（えびがた）、抱型）の3種類を組み合わせた演技の美しさや入水時の水しぶきの少なさなどを見る。（10点満点からの減点法で行われ、女子は5回（男子は6回）演技を行い、その合計点数を競う。（予選に34名が出場。準決勝を18名、決勝を12名で競う。）

東京 2020 オリンピック聖火ランナーの応募結果について

令和元年9月13日
ス ポ ー ツ 課

東京オリンピック競技大会の聖火リレーについて、県内での実施(2020年5/22~23)に向け、「東京2020オリンピック聖火リレー鳥取県実行委員会」を中心に準備を行っているところですが、このたび、県内を走行する聖火ランナーの県実行委員会公募枠の募集を実施し、以下のとおり応募がありました。

1 東京2020オリンピック聖火リレー鳥取県実行委員会公募枠の応募結果

応募総数：1,036人(全19市町村)

※市町村ごとの応募数や応募者の属性(年齢や性別等)については組織委員会の要請により非公表となるが、老若男女、障がいのある方、外国籍の方など様々な方が応募。

公募人数：23名

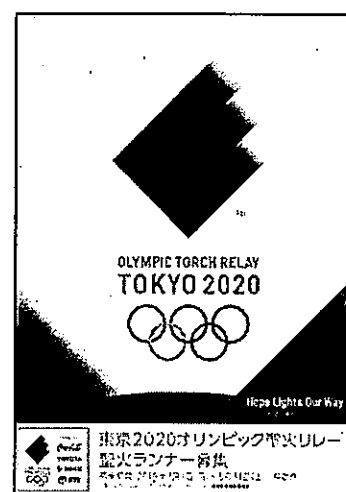
2 県実行委員会の公募ランナー選定について

各市町村で候補者を第一次選考後、県実行委員会での最終調整を経て、組織委員会に推薦し、12月頃に最終決定となる。

※選考方法は各市町村の基準によるが、抽選は不可であり、応募動機等を勘案して審査。

※県実行委員会では、必要に応じて男女比や年齢層等のバランスを勘案するなどの調整を行う予定。

※ランナー当選者のみに、組織委員会から通知が発出される予定。



県実行委員会制作ランナー募集ポスター

(参考1) 東京2020オリンピック聖火リレー鳥取県実行委員会公募枠の聖火ランナー募集概要

- (1) 募集期間 2019年7月1日(月)～8月31日(土)
- (2) 公募主体 東京2020オリンピック聖火リレー鳥取県実行委員会
- (3) 公募人数 23名
- (4) 応募方法 応募用紙に必要事項を記入し、下記提出先に電子メールまたは郵送・持参により提出。
応募用紙は、県ホームページ(<https://www.pref.tottori.lg.jp/tokyo2020-seika/>)からダウンロードしていただくか、下記提出先窓口にて受取り。
※住所・氏名等の基本情報のほか、自己PR・応募動機、第三者の推薦等を記入し提出。

(参考2) 東京2020オリンピック聖火ランナーの選出について

- (1) 県実行委員会での選出枠数：44名・枠(1日あたり22名)
※うち23名を公募。

(2) 県実行委員会でのランナー選出計画

区分	選出数	備考
PRランナー	1名	
グループランナー	1枠	10名までのグループで走行可能
市町村公募ランナー	23名	4市(各2名)、15町村(各1名)
市町村推薦ランナー	19名	各1名
合計	44名・枠	【推薦】21名・枠【公募】23名

(3) 県内ルートで走行するランナーの総数

過去大会でのランナー数を参考にすれば、プレゼンティングパートナー(聖火リレースポンサー4社：コカコーラ、トヨタ、NTTグループ、日本生命)枠も含めた県内全体でのランナー数は、2日間で180名程度となる見込みである。

JFA 第 14 回全日本ビーチサッカー大会の結果について

令和元年 9 月 13 日
ス ポ ー ツ 課

9 月 6 日 (金) から 8 日 (日) までの 3 日間、鳥取市の賀露みなと海水浴場において、「JFA 第 14 回全日本ビーチサッカー大会」が鳥取県で初めて開催されました。大会期間中は、約 1,200 人が観戦し、鳥取県代表チームの「SC 鳥取ビーチサッカー」はグループリーグ 3 位の成績を収めました。

1 大会結果

- (1) 参加選手：約 250 名 (全国各地域代表 16 チーム)
- (2) スタッフ：約 240 名 (競技役員、審判員、公式記録員、競技補助員、ボランティアスタッフ)
- (3) 観客数：約 1,200 人 (3 日間)
- (4) 競技結果：優勝 「東京ヴェルディビーチサッカー」 (関東地域第 1 代表)
準優勝 「ソーマプライア沖縄」 (九州地域第 2 代表)
3 位 「ドルソーレ北九州」 (九州地域第 3 代表)
3 位 「レーヴェ横浜」 (関東地域第 3 代表)

※鳥取県代表「SC 鳥取ビーチサッカー」はグループリーグ 3 位。

(出場全 16 チームを 4 チームずつ 4 グループに分けてリーグ戦を行い、各グループ上位 2 チームの 8 チームが決勝ラウンドへ選出。)

(5) 鳥取大会の特徴

○JFA ビーチサッカー地域巡回クリニック

東部地区の小・中学生を対象としたビーチサッカー教室を決勝戦の前と表彰式の後に 2 度開催し、約 100 人の児童・生徒が参加した。講師は現ビーチサッカー日本代表コーチの牧野氏と元監督の鳥飼氏が務め、地元 SC 鳥取ビーチサッカーの選手たちもコーチ役として参加した。

○飲料販売・観光ブース、わったいな等への誘導

会場入口に「飲料・プログラム販売」と「観光・周辺案内」ブースを設置し、冷たい飲料水の販売で熱中症予防を図るとともに、観光パンフレットや賀露の案内マップを用いて県内外の来場者に向けて観光 PR を行った。また、「わったいな」「かろいち」「かにっこ館」等、隣接する施設への誘導案内も行い、来場者の多くが隣接施設で食事や買い物を楽しんだ。

○本県等の取組

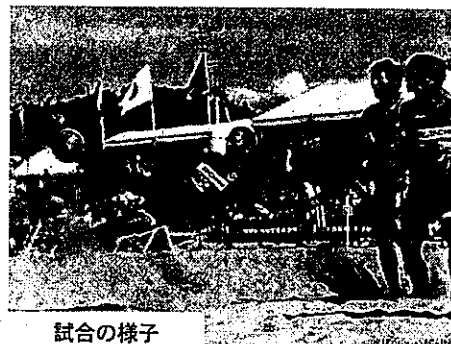
主管の鳥取県サッカー協会に対して、県と鳥取市で 1,500 千円を支援 (各 1/2) し、協会と一緒に広報 PR・盛り上げ等を行った。(のぼり制作、新聞広告、県庁・市役所での横断幕・懸垂幕の掲示等)

2 選手・関係者・観客の声

- ・「鳥取の自然環境はすごくよかった。会場の砂は想像以上にやわらかく、暑さもあってプレーが難しかった。宿泊した吉岡温泉の旅館では鳥取の美味しい食事や温泉を楽しむことができ、とてもよい環境でコンディションを整えることができてよかった。」(東京ヴェルディ選手、チームスタッフ)
- ・「初めての鳥取開催だったため、鳥取県サッカー協会と連携を密に取らせてもらい運営準備を行った。空港や街なかの掲示物やメディアリリース等、大会の事前告知を想像以上にいただいております、連日多くの方に観戦いただけて大変うれしかった。」(日本サッカー協会 大会運営役員)
- ・「国内トップレベルのプレーを間近で観ることができて、すごいと思った。」(観客の方)

【JFA 第 14 回全日本ビーチサッカー大会】

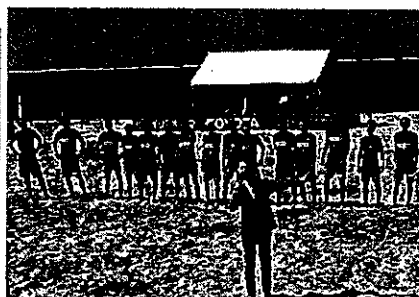
- ・期 日 令和元年 9 月 6 日 (金) 1 次ラウンド
9 月 7 日 (土) 1 次ラウンド、準々決勝
9 月 8 日 (日) 準決勝、決勝、表彰式
- ・競技会場 鳥取市賀露みなと海水浴場
- ・主 催 公益財団法人日本サッカー協会 (JFA)
- ・主 管 一般財団法人鳥取県サッカー協会
- ・出場チーム 16 チーム (全国各地域代表、鳥取県代表含む)



試合の様子



観客席



表彰式



ビーチサッカー地域巡回クリニック

中国5県地域おこし協力隊合同研修会の開催結果について

令和元年9月13日
中山間地域政策課

中国5県知事会中山間地域振興部会の共同事業として、各県における地域おこし協力隊の活動事例を共有し、県境を越えた多様な人材のネットワークを醸成することで、協力隊の活動の円滑化・高度化や地域への定着に繋げることを目的とした研修会を次のとおり本県において開催しました。

参加者からは、他地域の事例を知り隊員と交流を持つことができ有意義な研修であったと好評を得ました。

1 日時・場所

令和元年8月30日（金）午後1時から5時20分まで 米子コンベンションセンター

2 参加者

中国5県の協力隊員、協力隊に係る県及び市町村担当者 102名（協力隊49名）

3 内容

(1) 全体研修

「地方」×「地方」の可能性を探る～中国地方と東北地方の比較を通して～

講師：野口 拓郎氏（地域おこし協力隊サポートデスク専門相談員）

(2) パネルディスカッション

「地域における生業づくりについて」

コーディネーター：中川 玄洋氏（特定非営利活動法人学生人材バンク 代表理事）

パネラー：中国5県の協力隊OBOG

(3) ワークショップ

ア 協力隊1年目 「1年目の協力隊がした方がいいこと、気をつけた方がいいこと」

コーディネーター：原田 昂拓氏（特定非営利活動法人学生人材バンク）

イ 協力隊2、3年目「協力隊を志望したその日から現在に至るまでを振り返りつつ、任期後の理想の暮らしまでのロードマップの作成及び意見交換」

コーディネーター：野口 拓郎氏

ウ 自治体職員 「卒業後を見越した地域おこし協力隊と行政の歩み方」

コーディネーター：中川 玄洋氏



全体研修



協力隊2、3年目分科会（ワークショップ）

4 参加者の感想

- 協力隊OBの経験談（成功、失敗）が聞け、自身の現状を再認識する良い機会になった。（協力隊員）
- 分科会では他地域の協力隊員と交流でき、共有の時間が多く取れたことで繋がりができた。（協力隊員）
- 1年目で腰が引けていたが、出来る活動を積み重ねれば良いと聞き気持ちが楽になった（協力隊員）
- 協力隊員の意見を多く聞き、悩みなども分かった。自治体としての反省点も理解できた。（自治体）

公共交通利用促進キャンペーンの実施について

令和元年9月13日
地域交通政策課

近年、免許返納者が増加する一方で公共交通の利用者が年々減少傾向にある中、公共交通を維持確保することが重要な課題となっていることから、昨年6月に「みんなが乗りたくなる公共交通利用促進協議会」を設置し、今年も9月を公共交通利用促進強化月間と定めて、県民の意識醸成を図っていくことを目的に国、県、市町村、交通事業者、関係団体が連携して、下記のとおり公共交通利用促進キャンペーンを実施します。

1. キャンペーン名称

「乗って！守って！公共交通利用促進キャンペーン」
～公共交通の維持確保、みんなで乗って守って未来へつなぐ～

2. キャンペーン実施時期

令和元年9月の一カ月間を公共交通利用促進強化月間とし、9月20日～30日（バスの日（20日）・秋の全国交通安全運動期間（21日～30日））を特に集中的にPRする時期とする。



3. 主な取組

(1) 公共交通利用促進PRポスター・のぼり掲出、チラシ配架

各市町村、主要駅（鳥取駅、倉吉駅、米子駅等）、バスターミナル（鳥取、倉吉、米子）、集客施設、商業施設等での利用促進PRチラシ配架・のぼり旗掲出、地域イベント等におけるPR活動を展開する。

(2) 公共交通PRイベント（県内3カ所）

公共交通利用促進のぼり掲出やパネル設置、交通トリピー（着ぐるみ）によるPR、チラシ配布等を実施する。

【東部】9/20（金）午後3時30分～4時30分 イオンモール鳥取北

【中部】9/25（水）午後3時30分～4時30分 パープルタウン

【西部】9/19（木）午後3時30分～4時30分 イオンモール日吉津



【のぼり掲出（県庁前）】

(3) 市報等によるPR広報

各協議会構成員の広報紙、ホームページや市町村ケーブルテレビ、コミュニティラジオ等の広報媒体等によるキャンペーン広報を実施する。

(4) 公共交通乗り方教室の開催（県内3カ所）

県内で開催されるイベントにあわせ、公共交通の利用方法等の説明、バスやUDタクシーへの体験乗車などの公共交通乗り方教室を開催する。

【東部】10/20（日）智頭町はたらくのりもの展（主催：智頭町）

場所：智頭駅前周辺

【中部】10/19（土）鳥取中部福高祭（仮称）（主催：倉吉銀座商店街振興組合）

場所：打吹回廊及び周辺

【西部】10/19（土）労福協まつり（主催：鳥取県労働者福祉協議会西部支部）

場所：米子産業体育館



【昨年の様子（中部）】

4. 「みんなが乗りたくなる公共交通利用促進協議会」について

公共交通の利用促進に向けた取組を連携して行うことを目的に国・県・市町村・交通事業者・交通関係団体が「みんなが乗りたくなる公共交通利用促進協議会（会長：地域づくり推進部中山間・地域交通局長）」を昨年6月から設置している。

構成メンバー：鳥取運輸支局、県地域交通政策課、市町村公共交通担当課、日ノ丸自動車、日本交通、JR西日本米子支社、若桜鉄道、智頭急行、県バス協会、県ハイヤータクシー協会、鳥取県交通運輸産業労働組合協議会

